

Series

聞

シリーズ：聞く

く

Vol.5



加東市長
山本 廣一さん

KSRS RICHEでは、北播磨での市民活動にご理解いただき、支援されている方、あるいは活動されている方々に対し、シリーズ「聞く」と題してインタビューを行っております。

第6回目は、平成18年7月26日に加東市長にお伺い致しました。

■質問 <まずは、北播磨の魅力についてお聞かせ願えますか？>

北 播磨というと、三木市から多可町まで、4市1町それぞれが独自のまちの特色をもって発展をつけている。その理由としては、交通や産業、文化などが地域ごとにしっかりしていることがあげられる。

例えば、交通の面から見ると北播磨の東西に中国道、山陽道が走り、国道175号線が南北に走っているし、鉄道ではJR加古川線や北条鉄道があり、公共の輸送機関も整備されていて、これだけでも交通の要所と言えるのではないかと。また、それぞれに工業団地もあり、交通の便がいいという利点がある。こういった産業基盤を充実させていると思う。

また、文化面では、それぞれの地域のまつりを上手く利用して、まち興しをしている。例えば三木市の伝統的な大宮神社の秋祭りがある一方で、小野市には新しい小野まつりがある。西脇市や加西市、その他の自治体もそれぞれにこういったまつりの文化があり、それを最大限活かしていくよう、

効用を図っていると思う。加東市の場合、今年は引き続き旧町でまつりをしているけれど、来年はひとつにできればと考えています。

また、北播磨には、国宝や重要文化財などが多く存在し、その一方で、加東市の播磨中央公園、三木市の防災公園、小野市のひまわりの丘公園、西脇の田園空間博物館、多可町の余暇村公園など近代的な施設も多い。こんな風に古くからの要素をもちながらも、都会的要素も取り入れている。その中間的な良さが何と言っても北播磨の魅力じゃないでしょうか。そして、こういった北播磨を育ててきたのは、そこに住まう人々が故郷を愛し、守り受け継ぎながら、人々との交流を大切にしてきた結果だといえるでしょう。

■質問 <これからのまちづくりをどのようにお考えでしょうか？>
今 の時代は、何処でもそうだと思うけれども、「何から何まで行政が用意してやってください」という行政

主導型のやり方を、少し考えていかないといけないと思う。住民の中から出てくるような行事・イベントや様々なものあり方を再度考えていかなければならないだろう。

私が常々言っているまちづくりの基本は、まずそれぞれの家庭をしっかりと守り育てていただく。その次に、昔の言葉で言う「むこう三軒両隣」が共に仲良くやっていく。次に組、隣保。この中をいかに仲良くやっていくかが重要で、それが上手いけばそれぞれの地区が良くなっていくと思う。それはひいては市が発展していくことに繋がる。

まさに、加東市も同様で、市内97地区がうまく連携がとれることが、市の発展になる。言い換えれば、もう一度原点に戻って家庭作りから始めると、おのずと市というものができていくのではないかと。

また、「家庭」という核の部分をしっかり持っていれば、その集合体でできている自治組織などの問題をおのずと解決していけるのではないだろうか。そういった問題解決を通じて、協働と参画ができていくと思う。

県では、小学校区・中学校区単位の自治組織への支援施策が展開されている。加東市においても、こうした住民自治組織を作りながら、地域づくりを考えていかなければならないと思います。

■質問 <今後の市民活動に対してお考えを聞かせてください。>

一般的に、区長さんを中心として行われる自治会活動やボランティア活動、NPO活動などがあり、不特定多数の人の利益に繋がるようなことをされるのが、市民活動だと思う。ボランティア活動も継続的にやる活動とその時だけ行うものがあり、私は本来ボランティアとは、その時々にするものだと思っている。継続的な活動には、別途支援も考えていかなければならないだろう。

もちろん、こうした市民活動は大切で、今後、市民活動の

組織化や活動していただく場所、また行政や地域とどのように結び付けていくかなど、加東市としてもこれからの大きな課題の1つでもある。幅広く捉えて、住民に活動していただく場をつくるのも行政の仕事であり、また協働・参画といった面からも、自治会組織、ボランティア活動、NPO活動、全てが1つの市民活動に繋がっているものだと考えている。



■質問 <私たち NPO 法人北播磨市民活動支援センターという組織について一言お願いします。>

ひ とつの組織としてずいぶんと活発に活動されており、これからの時代には非常に大切な組織だと思う。加東市はまだ具体的な構想には至っていませんが、市民と行政の協働によるまちづくりを進めるために、活動が推進される環境づくりを行うことが重要であり、今後、検討していきたいと考えています。

ボランティア NEWS

「人が好きな人」

エクラガイドボランティア

「人が好きな人に参加して欲しいねん」という誘いに深く考えもせず仲間入りをしたのがエクラガイドボランティアでした。

エクラのことを何も知らないのにガイドなんてできるの？と不安な私に渡されたのはマニュアル。その日からマニュアルとにらめっこ。しかし年のせい？かなかなか頭に入らず、マニュアル片手のガイドです。それでも、回数を重ねるうちに少しは、覚えられたかも知れません。

見学を希望される方の目的はいろいろですが、なかでも印象に残っているのは、大学の推薦入試で提出するレポートをエクラをテーマに書きたいという高校三年生の方のガイドをしたことです。後で合格を知って役に立ててとても嬉しく思いました。またこの春から小中高生に見学を呼びかけていますがそれに応えて社会見学で下東条小学校の三年生が来館してくださって、特別会議室やホールで椅子に座ったり舞台上に上がったり楽屋に入ったりして「エクラっておもしろいやん」と喜んでいただきました。こうしている人々の方々に見学していただきエクラを身近なものに感じて「エクラ行く？」なんて言葉が日常会話になってくれることを願って、これからも館の方に助けられながらエクラとみなさんの架け橋になっていけたらと思っています。



小野まつり屋台村

市民参加の屋台として、大池公園市民広場でとろせましと33店舗の屋台が並びました。小野市内の企業、飲食店又三田市から参加のフロンティアグループなど、なかでも小野市国際交流協会は、加西市在住のイランの方がベルシャ料理のドネルカバブサンドと言うチキンをピタパンにはさんだトルコ風チキンサンドを販売、ヘルシーで大変美味しいとの事でした。「小野市小麦を広めよう会」は、8月8日に一般販売が始まったばかりの小野市産新品種小麦を使った乾麺「ふくほの香」の冷やしうどんを出店、これから小野市で活躍していく男女青年達の成人式実行委員会も、こども達が喜びそうなくじ引きを出店し、頑張っていました。又屋台村の一角に設営されたゲリラステージでは、威勢よくダンスに参加して踊る人もあり、2日間にわたり暑い中みんな和気あいあいとたくさんの人達で賑いました。

